

第2層協議体課題抽出シート（令和元年度）

小学校区	提出日	課題区分	課題	提案	効果	今後の方向性	備考
山之上	令和1年9月30日	活動の担い手	体操普及の講座であるマスター教室に参加したが、南部生涯学習市民センターなど近い場所で講座があれば参加しやすいのではないか。	内容が薄いようにも思う。介護予防に関することを3回ぐらいに分けてしっかり講義してほしい。	介護予防分野の担い手が充実する。	第1層協議体へ提案	
殿二	令和2年3月30日	情報の共有	要支援者名簿の乱立	校区としての名簿統一	大規模災害時の対応円滑化	第1層協議体へ提案	
菅原	令和1年10月23日	情報の共有	社会資源として既に活動しているサークル等の集まりは存在しているが、その情報が一元化されていない。	菅原校区に対し、回覧板にアンケートを挟んでいただき、地域住民がどの程度まで社会資源を把握されているのか確認する。	情報の把握度合いを知ること、今まで知らなかった集まりの情報も得られる可能性がある。	第2層協議体で取組み	
菅原	令和2年3月31日	情報の共有	地域で様々なサロン等の集まりやイベントを定期的に行っているが、開催場所や何を行っているのか情報を知らない方が少なくない。	集まりの公式なパンフレットの作成を地域包括支援センターと共に作成し、掲示板や商店等の目立つ場所に掲示する。	固定気味である既存の集まりの場に新たな参加者を呼ぶことが出来る。そこで今後、役を担っていただける人材を発掘することが出来る。	第2層協議体で取組み	
蹠陀	令和1年10月1日	交流 活動の場	情報共有を目的に、各自治会・老人会での取組みをまとめて会議で共有ができた。同じ人の参加が主になってしまっているということが全ての集まりから出ている。参加されない人への声かけをどうしていくか、サロン内容をどう充実させていくかが課題	各自治会・老人会で自治会館を利用出来ていないところもある。隣り合っているサロンの時に、まず役員に見に来てもらい、お互い行き来ができるように、校区の中で交流を密に出来るようにしていければ。	今後後期の会議時に具体的に深めていく。	第2層協議体で検討 第2層協議体で取組み	
津田	令和1年10月10日	情報の共有 活動の場	介護サービス事業所に協力いただき、また複数の居場所を開設したが、参加者が増えない。地域の高齢者の個人がやりたい活動が不明である。	アンケート作成や周知活動を充実し、地域にチラシ等を配る。（回覧）	一人暮らしの高齢者の参加が増える。	第2層協議体で取組み	
津田	令和2年3月31日	情報の共有 活動の場	複数の居場所を地域の皆さんに周知する。また介護、医療サービス事業所にご協力いただき活動内容の充実を図る。	地域住民向けのアンケート作成や周知活動を充実し、地域にチラシ等を配る。	地域高齢者（一人暮らし含む）の参加が増える。	第2層協議体で取組み	
藤阪	令和1年10月7日	情報の共有 活動の担い手 交流 活動の場	サロンや老人会など集まる場所はあるが、参加メンバーがいつも同じで新規の参加者が増えない。 運営する担い手も不足している。 介護や健康に対して、学びの機会が少ない。 居場所づくり事業だけでは、講座など費用負担がある。	現在のサロンや老人会を盛り上げ、参加意欲が高まる集いの場を目指す。 地域元気づくり教室（介護予防教室）の補助金を積極的に活用し、学びの機会を増やす。 コーディネーター事務の委託料を活用した藤阪校区介護予防・日常生活支援助成事業費を積極的に利用していただく。 校区内の空きスペースを使い、サロンや相談スペースに活用できないか検討していく。	一つのサロンが活動を報告することで、会議に参加している他の活動団体も刺激を受け、会議での情報共有もでき、校区内で地域元気づくり教室（介護予防教室）が活発に開催された。サロンの新規参加者が増え、サロンの担い手であるボランティア活動にも参加協力をしてくれる人が増えた。 講師調整がしやすいように、介護サービス事業所からも講座ができる一覧の提案があり、各団体が積極的に講師の調整を行え、地域と医療、介護事業所との連携が進んだ。	第2層協議体で取組み	各団体が行った地域元気づくり教室（介護予防教室）の講座内容をまとめ第2層協議体での成果物として校区内で活用していく。
小倉	令和1年9月30日	交流	既存の活動では集まる人がいつも同じ	コミュニティ協議会主催で、けんこう交流会を行い、普段と違う方が来れば良いのではにか。	福祉委員会等に来られない方も参加できる。	第2層協議体で検討	
伊加賀	令和2年3月31日	情報の共有 交流の場	新たな参加者が増えない。また活動場所を知らない人もいる。	地域マップの作成を行い、活動の周知を行い、新たな参加者を増やす取組み		第2層協議体で検討	

第2層協議体課題抽出シート（令和元年度）

小学校区	提出日	課題区分	課題	提案	効果	今後の方向性	備考
藤阪	令和2年3月31日	情報の共有 活動の担い手 交流 活動の場	サロンや老人会など集まる場所の参加メンバーも、地域元気づくり教室（介護予防教室）を開催することで、少しずつ新規の参加者も増えてきているが、2025年問題を踏まえ、ますます高齢化率の増加も予測され、介護予防への積極的な取り組みが必要である。 運営する担い手も不足している。 介護や健康に対して、学びの機会が少ない。 居場所づくり事業費だけでは運営継続費用では会場費や講師料が負担がなく、運営継続が難しい。	現在のサロンや老人会を盛り上げ、参加意欲が高まる集いの場を目指す。 地域元気づくり教室（介護予防教室）の補助金を積極的に活用し、学びの機会を増やす。 コーディネーターの委託料を積極的に利用していく。 校区内の空きスペースを使い、サロンや相談スペースに活用できないか検討していく。 施設や地域活動に対し、ボランティアを増やすことが出来な いか。	講座内容をまとめた一覧を活用し、地域元気づくり教室（介護予防教室）が活発に開催され、サロンの新規参加やボランティア活動への参加協力をしてくれる人が増えた。 バス停前広場で、毎月2回ひらかた元気くらわんか体操の企画を後援し、地域の健康づくりや介護相談場所の提供に向けて進めている。 傾聴ボランティアについて、講演会やほかの地域でのボランティア活動など情報提供をする事で、メンバーへ関心を高め ていく。	第2層協議体で取組み	バス停広場での「ひらかた元気くらわんか体操」実施に向けて、地域の理解や体操の効果を周知する。
西長尾	令和2年3月31日	その他（参加者性別 偏り）	地域に様々な体操サークル等の集まりは数多く存在するが、どの集まりも比較的男性参加者が少ない。	校区で行われているサロン等の情報を一枚にまとめたパンフレットを作成し、見守り隊の集まりの際などにそのパンフレットを配布し情報提供を行う。	男性参加者同士のネットワークが広がることで、地域の集まり以外の場所でも交流していただく機会が設けられる。	第2層協議体で検討	
山之上	令和1年9月30日	課題共有	男性の高齢者の活躍や社会参加を考える必要がある。生涯学習市民センターなど近い場所で講座があれば参加しやすいのではないか。	生涯学習市民センターで男の料理教室の実施。また、より地域に密着した公民館での介護予防教室の実施	より地域に密着した男性の活躍の場の推進	第2層協議体で検討	
蹠陀西	令和1年10月1日	交流	年間10回元気づくり地域づくりの取組みを定期的に施行。参加者の健康維持、フレイル予防等を目的に必ずひらかた元気くらわんか体操を取り入れて開催している。登録者数は増えてきているが、男性参加者が殆どいない。	昨年度末より、男性参加者に興味や理解が得やすく参加を促す取組みとして夕方の時間から男性主体の居酒屋を開催	初回と人数的には変わらず参加者を集める事に苦慮している。	第2層協議体で検討 第2層協議体で取組み	
小倉	令和1年9月30日	情報の共有	ひらかた元気くらわんか体操はなじみがないが、結構良いので始めたい。	校区全体行事の時にいき認知度を高める。（昨年度までは地域包括支援センター職員により行っていたが、今年度は地域の役員で行う。） 小単位の折々の集まり（自治会、老人会、校区福祉委員会、会食会等）で行う。（必要であればDVDプレイヤーの貸出）	校区が自主的に行い浸透してきた。 定期的に継続して行う自治会もあり、効果を感じておられるので、定期的に継続して行う自治会を増やしたい。	第2層協議体で検討	
小倉	令和2年3月31日	情報の共有	地域で認知症と思われる方がいるが、対応が分からない。	個別に相談してもらおう。	地域に気軽に相談してもらおう。	その他（地域への周知を広げる）	
平野	令和1年10月10日 令和2年1月10日	活動の担い手 活動の場	認知症の人が増えている。 老人会の活動をする人が減っている。 グラウンドゴルフ等、参加するだけで、片付け等に参加しない人も多く、受け身の人が多い。 スポーツに参加できない人の居場所づくり。	各自治会や老人会など比較的小さな単位で認知症サポーター養成講座や認知症予防の出前講座を開催 老人会に入っていない人がなぜ入らないか分析し、興味を持っていただくような取組みを元気広場（第2層協議体）で考える。 何度も片付けなどにも参加するように声をかけていく。 グラウンドゴルフや老人会に参加するメリットが目に見える と参加者が増える可能性あり。（高齢者居場所づくり事業の活用）	当事者だけでなく、幅広い世代に認知症を理解してもらうことで、高齢者が住みやすい街になっていく。 老人会が地域の高齢者の居場所として機能すると、比較的身近な場所での居場所ができ、居場所に参加できる高齢者が増える。（校区には各自治会に1つ老人会がある。） 高齢者が運営側に回ることで、担い手の人数が増え、居場所の数も増える。	第2層協議体で取組み	

第2層協議体課題抽出シート（令和元年度）

小学校区	提出日	課題区分	課題	提案	効果	今後の方向性	備考
平野	令和2年3月31日	活動の担い手 活動の場	元気な高齢者を増やすにはどうしたらよいか。 家に閉じこもっている高齢者が地域と関わる場所が少ない。 カーリコンとグラウンドゴルフは地域に定着しているが、その他の活動が少ない。 地域の人が通いやすい場所が少ない。	勉強会や健康セミナーなどの出前講座を開催する。 グラウンドゴルフやカーリコンを居場所登録し、新たな高齢者の参加を促す。	身体を動かすことが苦手な高齢者がセミナー等に参加することで、幅広い層の交流の場が増える。 参加者が増えることで担い手が増え、様々な活動の居場所も増える。	第2層協議体で取組み	
山之上	令和1年9月30日	情報共有	空き家問題などが多くある。また、高齢化率が日常生活圏域内で最も高い地域であり、加齢にともなう認知の低下による成年後見制度に関する相談も多くある。今後、地域のニーズに合わせた住民啓発が必要ではないか。	校区にて相続等の相続後セミナーについて実施する。	認知症高齢者への権利擁護につながる。	第2層協議体で検討	
枚方	令和1年9月30日	情報共有	団地の実態把握が必要。虚弱高齢者が生活困窮に陥っている事例が続いている。自治会長はいるが、コミュニティの会議などには出席がない。民生委員は任命されているが団地在住ではない。独居リストは把握しているが、それをオープンにしての訪問は個人情報の関係からできない。	団地の虚弱把握を地域包括支援センターが実施するのはどうか。 独居リストを提供してもらい、クローズで訪問し、アウトリーチを行っていく。	団地の個別訪問を行うことで、新たな虚弱高齢者の把握につながった。 自治会長へ訪問について説明し、了解を得ることができた。 自治会長には苦情等にて報告が入っており、直接自治会が地域包括支援センターへ依頼する形ができれば良いのではないかと。	第2層協議体で取組み	
西長尾	令和1年10月23日	活動の担い手	リーダーとして活動できるメンツがいつも同じメンバーなので、その代表者の負担が大きくなるので、その代表者の負担が大きくなる傾向にある。	カーリコンの活動を開始されている中で地域の見守り隊にもカーリコンの参加を促す。	カーリコン参加者メンバーの偏りが見られるため、主だった中心人物は見つけられていない。開催日時や場所の再検討を行いながら参加者の幅を広げる必要がある。	第2層協議体で検討	
山田	令和2年3月31日	情報の共有 活動の担い手 交流 活動の場	地域の担い手が高齢化により不足している。民生・児童委員さんも欠員で、改選の影響もあり見守り活動の引き継ぎも含め、お一人あたりの活動範囲が広く負担が大きい様子。次世代の担い手を増やしていく必要がある。	校区全体で世代間交流できる行事を継続し、次世代の担い手を発掘していく。 第2層協議体会議の機会に構成団体の状況を情報共有し、小地域の結束力がある強みを生かし、担い手の発掘や担い手の負担を軽減できるような取り組みの検討もしていけたらと考える。（高齢者居場所づくり事業の発展等）	担い手の発掘	第2層協議体で検討 第2層協議体で取組み	
小倉	令和2年3月31日	活動の担い手	行事が好評なのはうれしいが、次はもっと頑張ると運営が大変になり、次の役員がなりてが少なくなる。	あまり頑張りすぎず普通にする。	役員になると大変という思いが少なくなる。	第2層協議体で検討	
開成	令和2年3月31日	活動の担い手	交流や地域元気づくり教室（介護予防教室）の企画や運営が会議の構成メンバーの負担になっている。	企画に応じて各委員会・他機関と共催していく。	次年度から検討予定	第2層協議体で検討	
殿二	令和2年3月30日	活動の担い手	担い手の高齢化、役割の重複	グループ支援活動と個別支援活動の一元化	担い手の役割軽減	第2層協議体で検討	
殿二	令和2年3月30日	活動の担い手	地域元気づくり教室（介護予防教室）の担い手の確保	外部委託の導入	活発かつ定期的な事業展開	第2層協議体で取組み	
樟葉 樟葉南 樟葉北	令和1年10月1日	活動の担い手	新たな活動の担い手をどのように増やしていくか。	地域包括支援センターにて、ボランティア講座を開催する。	民生・児童委員や福祉委員会等と関わりのない人たちにも地域の居場所活動を啓発できる。	第2層協議体で取組み	

第2層協議体課題抽出シート（令和元年度）

小学校区	提出日	課題区分	課題	提案	効果	今後の方向性	備考
蹠陀東	令和1年10月1日 令和2年3月31日	活動の担い手	老人会のメンバーも高齢になり、登録されているが集まりに出てこないメンバーをどのように出てきてもらうか。また会の役員をどのように集めるか。	各取組みの良いところを参考に、会の内容をいかに魅力あるものにするか、今後も情報共有する。	継続検討	第2層協議体で検討 第2層協議体で取組み	
西牧野	令和1年9月30日 令和2年3月31日	活動の担い手 交流	居場所を自分たちで運営してほしい。	まずはお茶をセルフで用意できるようにし、運営役員を減らしていく。	完全自動化できれば、次の場所を探して作っていく。校区全体で助け合うことができる。	第2層協議体で取組み	
船橋	令和1年10月10日 令和2年1月10日	活動の担い手 活動の場	元気いきいきサロンは、集会所の2階で行っているが、階段があり、その昇降が困難な人は参加できない。そのため新しいメンバーが増えない。 男性の参加者が少ない。	車いすの人は無理でも、少し手を貸せば昇降できる人に対しての送り迎えをする人の募集 元気な男性の活躍の場（前述の送り迎えなどの役割を担う等）を考える。	単に参加して楽しむだけではなく、担い手として男性を取り入れる事により、役員の負担も軽減される。	第2層協議体で取組み	
船橋	令和2年3月31日	活動の担い手 活動の場	カーリンコンや老人会の参加者が少ない。 元気じゃない高齢者の居場所がない。 役員の高齢化が進んでいる。 多くの参加者が現状で満足し、新しいことができない。	シニアクラブ等の集まりにカーリンコンをPRする。 カーリンコンのチラシを作り、どんなものか知ってもらう。 漫才や落語のDVD上映など、高齢者が親しみやすい活動とその他（カーリンコンや新しい取組み等）を一緒にやる。 元気な高齢者の活躍の場（ボランティア等）を考える。	活動内容を広く周知することで参加者が増え、役員等の担い手になっていく。 元気な高齢者の役割をつくることで、地域で孤立する高齢者が減少する。	第2層協議体で取組み	
招提	令和1年10月10日	活動の担い手 その他（地域の交通環境）	①道路の白線や道路記号が見えにくくなり、交通事故の原因になる可能性がある。 ②老人会やカフェなどに参加しない人 ③老人会の役員が無理をしている。一般の会員も出てくる老人会にするためには	①交通環境に関しては、要望書を上げていく。 ②一人では外出できない人の支援をする人の育成 ③役員の負担の軽減と役員の世代交代のために、どんな集まりだったら前期高齢者が参加してくれるのかを考える。	交通環境を整えたり、支援してくれる人が増える事で、安心して外出できる高齢者が増える。 支援する側の若い世代が増えることで、地域の居場所や活発な老人会が増える。	第2層協議体で取組み その他（要望書の作成）	
招提	令和2年3月31日	活動の担い手 その他（地域の交通環境）	道路の白線や道路記号が見えにくく、交通事故の原因になる可能性がある。 カフェなどの新しい参加者が少ない。	交通標識については、9月26日枚方市交通対策部に要望書を提出した。引き続き要望していく。 身近な情報提供などイベント内容を工夫し、一人でも多くの高齢者の参加を募る。	交通環境を整えたり、支援してくれる人が増える事で、安心して外出できる高齢者が増える。 参加者が増えることで地域住民同士がつながり、見守り機能が充実する。	第2層協議体で取組み その他（要望書の作成）	
津田南	令和2年3月31日	情報の共有 活動の場	一人暮らしの方の買い物支援サポートが必要	介護サービス事業者と大手スーパーに買い物支援について検討している。	地域一人暮らし（認知症）の買い物難民の減少	第2層協議体で取組み	
香陽	令和1年10月4日 令和2年3月31日	活動の場	活動の拠点となる場所がない。	自治会の集会所等を会員外も利用させていただけるよう役員へ働きかけ	コミュニティ全体で集会所の有効活用	第2層協議体で取組み	
香陽	令和1年10月4日 令和2年3月31日	活動の場	健康意識の高い方が多いが身近な場所で運動できる場がない。	運動の連続講座をきっかけに自主運動グループの立ち上げ（2か所目）地域元気づくり教室（介護予防教室）補助金の活用	興味を持った人が集まるので身近な運動の拠点となる。	第2層協議体で取組み	
殿二	令和2年3月30日	交流の場	高齢者の居場所の不足	新たな活動場所の選定	活動場所の提供者との連携 オレンジカフェの実現	第2層協議体で検討	

第2層協議体課題抽出シート（令和元年度）

小学校区	提出日	課題区分	課題	提案	効果	今後の方向性	備考
伊加賀	令和1年10月1日	交流 活動の場	活動スペースが現状2か所しかなく、参加できる人とできない人の偏りが大きい。	高齢者施設の食堂スペースを活用	これまで活動に参加したくても、できなかった人へ外出の機会を期待している。	第2層協議体で取組み	
樟葉 樟葉南 樟葉北	令和1年10月1日	活動の場	高齢者が介護予防や知識・情報の共有など、身近な場所で活動や勉強が可能な場を増やしたい。	地域包括支援センターの会議室にて「こもれび教室」「こもれびサークル」を実施する。	近隣の比較的元気な高齢者が気軽に活動できる場を増やすことができる。	第2層協議体で取組み	
西牧野	令和1年9月30日	交流	地域の場所で集まる場所はあるが使っていない。	定期的な居場所をつくる。	居場所も軌道に乗り、人も増えてきた。（元気な高齢者、虚弱な高齢者、要支援の方、要介護の方<認知症、車いす含む>）	第2層協議体で取組み	
殿一	令和1年9月30日	交流 活動の場	校区内で健康に資するものがあまり少ない。	校区全体でウォーキングイベントを行う。	ウォーキングイベントを行うことで歩ききっかけになればよい。また住民間の交流が広がればよい。	第2層協議体で取組み	
殿一	令和1年9月30日 令和2年3月31日	交流 活動の場	常駐の活動が少ない。	校区内で3か所程度の居場所をつくり、それぞれ月1回開催できれば、月3回の活動場所ができる。	地域それぞれの運営は月1回だが、行ける方は月3回の居場所ができる。	第2層協議体で取組み	
殿一	令和2年3月31日	交流 活動の場	ウォーキングイベント好評だが、知らなかったという声もある。	ウォーキングイベントを続ける。回覧の時期を検討し、ポスターを強化する。	次回の開催で効果判定	第2層協議体で取組み	
殿一	令和2年3月31日	活動の担い手 交流 活動の場	居場所づくりに自治会の協力が得にくい。	コミュニティ協議会の活動の一環としての元気づくり・地域づくり会議（第2層協議体）ということを認識してもらう。	他人ごとではなく「我がこと」として認識すれば活動が前向きになる。	第2層協議体で取組み	
蹉跎	令和2年3月31日	交流	各老人会や地域でのサロン等、参加されない人の参加を促すために、どのような内容ならば参加を考えてもらえるかを考慮した。	校区全体で集いの場とし、R2年度中に①歌う会（参加者全員がコーラス）、②シニア食堂（男性向け料理教室など）を開催する。場所は集まりやすい生涯学習市民センターの予定	実施後に評価する。	第2層協議体で取組み	
開成	令和1年10月4日 令和2年3月31日	交流	交流や地域元気づくり教室（介護予防教室）の企画を行っている参加メンバーがいつも同じで、新規の参加者がいない。（人を集めた企画になっている。）	企画の内容をニーズに合わせる。	取組み途中で効果は不明	第2層協議体で取組み	
高陵	令和1年10月10日	情報の共有 活動の担い手 交流 活動の場	若い人が地域福祉活動に関心が少ない。	小学生児童など、子どもが関心を持つことは保護者が関心を持つきっかけにもなることが予想されるため、学校と連携した事業展開を考える。	学校と連携した世代間交流を土曜日に開催し、保護者の参加も促す。保護者と福祉委員会の交流にもつながる。	第2層協議体で検討 その他（校区福祉委員会・学校と共催で取組み）	
高陵	令和2年3月31日	情報の共有 交流 活動の場	学校統廃合や教員異動における活動への影響（活動場所は小学校の校区集会室がメインになっており、児童との交流を目的とした活動が多い）	第2層協議体構成団体に学校を含めてはどうか。	時間をかけて話し合いをすすめる。	第2層協議体で検討	
高陵	令和1年10月10日	情報の共有 活動の場	災害時の空き家対策	空き家に関する情報の収集（空き家対策、空き家活用事例など）	管外研修として古民家を活用した認知症カフェを実施している他市の情報収集する。	第2層協議体で取組み	

第2層協議体課題抽出シート（令和元年度）

小学校区	提出日	課題区分	課題	提案	効果	今後の方向性	備考
樟葉 樟葉南 樟葉北	令和2年3月31日	その他（アクセスの問題）	居場所自体は増えてきているが、軽度認知症の方など、参加したい気持ちがあっても居場所までたどり着けなかったり、日時を忘れてしまう方が増えている。	日常生活圏内で、そのような方に声かけしてもらい、一緒に参加してくれる方を募った。	今のところ目に見えた効果は出ていないため、継続課題としていく。	第2層協議体で取組み	
西牧野	令和1年9月30日 令和2年3月31日	その他（セルフケア）	地域の高齢者が介護予防・認知症予防の取組みを自ら行っていない。	校区全体で健康セミナー体力測定会を行い、測定結果と対応方法を記載したファイルを渡す。	介護予防に自ら取り組んでもらう。利用者には好評なため、できれば複数回続けたい。	第2層協議体で取組み	
船橋	令和2年1月10日	活動の担い手 活動の場	コーディネーター委託料で、いろんな場所のレクリエーション等の物品を購入した。初期投資が終わったので、今後どのようにプールしているお金を使っていくか。	物以外にも使う（講師など） 新たな取り組みを考える。		第2層協議体で取組み	
樟葉 樟葉南 樟葉北	令和2年3月31日	交流	高齢者お出かけ推進事業・ひらかたポイント事業について、知らない人が多いことと、楠葉地域で使える店が少ないこと、利用するための手続きが煩雑なこと等の課題があげられた。	事業をよく調べてみると、高齢者にとって役に立つ内容もあると思うので、今後困難もあると思うが、まずはやってみるところからはじめていく。	新型コロナウイルスのため、しばらくは地域での活動ができないため、今のところ目立った効果はでていない。	第2層協議体で取組み	
香陽	令和1年10月4日 令和2年3月31日	活動の担い手	地域の支え合い活動「おたすけメイト」を立ち上げたが周知が難しく依頼が少ない。	民生委員が対象者に案内 「祭り」に説明ブース設置 老人会や一人暮らし老人会、サロン等、高齢者の集まりの場で案内 コミュニティだよりに記事掲載	少しずつであるが依頼が来ている。	第2層協議体で取組み	
香陽	令和1年10月4日 令和2年3月31日	活動の担い手	「おたすけメイト」の活動のモチベーション維持	メイト頼りを発行（依頼内容等のデータ） メイトの座談会企画 「おたすけメイト交流会」の開催	活動の状況を知る事や交流を通じモチベーション維持 新しいメイトの発掘に繋がる	第2層協議体で取組み	
西牧野	令和1年9月30日	情報の共有 活動の担い手 交流	ちょっとした生活支援の「お助け隊」を校区全体に拡げたい。	各自治会で立ち上げて手におえなければ校区全体でお助け隊を派遣する。	校区全体で助け合うことができる。	第2層協議体で検討	